

セカンド  
キャリア  
の

# 球入カ

第二の人生で  
生かされる  
プロ野球魂

不定期連載 Vol. 92  
取材・文 椎屋博幸  
写真 B B M

野球によって育てられた人間は、やはり野球によって生かされ、その思いを後輩たちに還元していくものだろう。元巨人の山本賢寿は、戦力外となり現役引退後、さまざまな仕事を経験した。しかし、心の中に故郷である神奈川県横須賀市を思う気持ちが強く、何が活性化させたいかと思っていた。そこで山本ができることは、野球で恩返しすることだったのだ。現在は「横須賀から甲子園」を目標に活動している。

## も

うすぐ夏の甲子園大会が始まる。どうしてもこの季節は、故郷への思いが募る時期。ましてや、地元の高校が久々に、また、初出場ならなおさら故郷への思いは強くなるはずだ。それと近い故郷愛の気持ちを持つ山本賢寿は今、壮大な地元への恩返し計画を抱きながら、日々を送っている。

「地元・横須賀から甲子園に行けるような高校が出てきてほしいんです。そうすれば横須賀がもっと活性化されると思うんですよ」

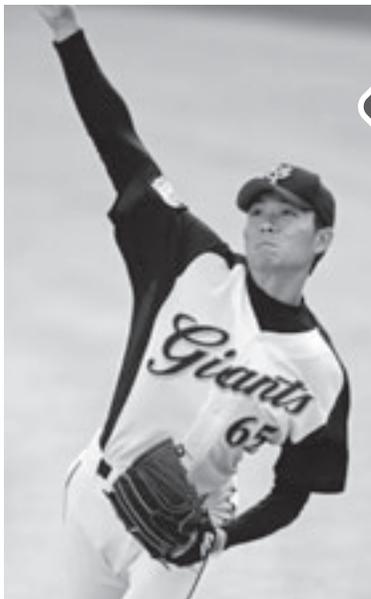
山本が生まれ育った神奈川県横須賀市。アメリカ軍や自衛隊の基地があることで有名な国際港湾都市で日本大都市制度の1つ。人口30万人以上の都市となる中核市に指定されている。現在の人口は約41万人。この市からまだ、甲子園に出場した高校がないのに驚かされる。山本自身は地元の横須賀市立工（現横須賀総合高）で野球部に入り3年生

時は4回戦で夏を終えた。

神奈川県の高校野球のイメージは、横浜、東海大相模、桐光学園など私立強豪校が思い浮かぶが、横須賀市の高校の名前はなかなか挙がってこない。「人口が40万人もいるような都市で甲子園出場がないのは横須賀くらいかもしれません。現役を終えて地元に戻ってきたとき、僕を育ててくれた故郷に対し何ができるのだろうか、と考えたときにやはり野球しかなかったんです。これまでの経験を子どもたちに伝えていく。彼らが地元の高校に進んで甲子園出場を果たしてくれば、横須賀も盛り上

がるのではないかと」

身長187cmの長身を生かした投球で帝京大時代はエースとして首都大学リーグでチームを2部から1部に押し上げた。大学日本代表にも選ばれ2004年ドラフト6位で巨人に入団。最速151kmの速球とスライダー、チェンジアップを武器に一軍昇格を目指したが、1年目の夏、右肩に激痛が走った。それまで故障などしたことがなかったという山本。治療を行いなから痛みとの戦いの中で、いつしか大好きな野球をすることが辛くなり、2年目が終わったとき



## 山本賢寿

ジャパンアシレチックアカデミー横須賀 専務理事  
(元巨人)



### 「将来は『横須賀から甲子園』を目指したいです」

に勤めながら、夜は全体の専門学校に通った。

このときはシヨックというよりも肩が治らないことで投げられないという思いが強く、次の新しい人生へと気持ちはすぐに切り替わった。それでも野球しかやってこなかっただけに、オーストラリアに飛び、野球のコーチングを1年間学び帰国。その後は自分と同じ境遇（ケガ）を味わってほしくないという思いでカイロプラクティックの店

す日々を送っている。

そこで2年間勤め、専門学校を卒業後、社会経験を積むために輸出入業務の会社に入社。そこでは事務的な仕事を中心に行ったが「最初はコピーの取り方も知らなかったんです」と笑う。その会社を退社した山本は2011年にエレクトロデザイン社に入社した後、社に所属する傍らで、NPO法人のジャパンアシレチックアカデミー横須賀という野球スクールを立ち上げた。山本は地元・横須賀にこのスクールを開くことで、スポーツ振興の協力ができると考えたのだ。現在は、この専務理事を務めながら、毎週水曜日の夕方、生徒たちとともに汗を流

余談ではあるが、実家は横須賀で2代続く老舗うなぎ料理店「うな萩」だ。山本自身一人っ子で跡取り息子でもある。しかし「父親から店を継いでほしい」というようなことは言われたことはありません。もっと社会を見てほしいということだと思いませんし、僕ももっと社会勉強をしなければ……」

そういう思いの中で、現在はスクール以外にも、横須賀市内で行われるスポーツ大会や野球・ソフトボール大会などにボランティアとしてかわり、市内の中学野球部の練習もサポートしている。「スポーツを盛り上げることで横須賀も盛り上がってくればうれしいです。そして将

来はやはり『横須賀から甲子園』を目指したいです」

大きな目標のために、老舗料亭を継ぐのはまだ先のような。今は山本を育ててくれた野球に対し恩返しをしていく時期だと考えている。まずは野球で横須賀を元気づけたい。そのために自分が培ったものを、子どもたちに伝えたい、その一心で今、心と体を動かしている。  
(文中敬称略)

**Profile**  
やまもと けんじゅ ●1981年4月8日生まれ。神奈川県出身。横須賀市工（現横須賀総合）から帝京大を経て03年にドラフト6巡目で巨人に入団。最速151kmの真っすぐとスライダーを得意として、即戦力と期待された。しかし1年目の夏に肩の痛みを発症。治療に費やしたが2年目のオフに戦力外に。その後オーストラリアに留学し、帰国後カイロプラクティック店や企業勤めを経験。11年にNPO法人ジャパンアシレチックアカデミー横須賀を立ち上げ、野球スクールを行っている。二軍戦での成績は、20試合に登板、2勝1敗0セーブ、防御率4.07。

## 2nd Career

川口寛人氏  
の 元巨人  
「ASS」宣言!

ASSの進捗報告

ASSが発足して、約半年経ちました。NPO法人設立申請も完了し、11月設立を予定しています。7月末はプロ野球の育成選手にとって重要な時期になります。支配下登録のチャンスが終わってしまうからです。それだけ厳しい世界です。特に、3年目の育成選手はラストイヤーになります。来年は再契約できるのか？先が不安になる選手が増えてくると思います。

とにかく、今は、来年に向けて再アピールのときです。とにかく、1年でも長くユニフォームを着ることを目標に選手には頑張ってもらいたいです。

ASSとしても、選手向けの社会人セミナーや講習会を企画しております。選手への社会についての情報があまりにも少ないため、ASSは選手にとってプラスなる情報や場の提供を行っていきます。もっと球界に浸透し、問合せが増えるような窓口を作っていきます。

NPO法人ASS  
担当：川口 寛人  
E-mail:  
info@ass.jp.com